

道徳学習指導案

授業日時 令和元年9月2日(月)第1校時
 授業学級 3年A組 野 19名 好 22名 計41名
 授業会場 (3-A) 教室
 授業者 _____
 指導教員 _____

1 主 題 名 「サグラダ・ファミリア - 受け継がれていく想い」

2 主 眼

資料「サグラダ・ファミリアー受け継がれていく想い」を読む場面で、「永遠の命」とはどのようなものかを考えるかを通して、人間の生の有限性を超えて永遠に続いていくものの感動や、畏敬の念を深め、道徳的心情を養うことが出来る。

3 指導上の留意点

・記述に困っている生徒が考えやすいように、それに応じたスライドを見せることで建設に関わる人々の具体的な心情を想起できるようにする。

4 展開

過程	学習活動【学習形態】	○予想される生徒の反応や意識	支援（・）と評価	時間
導 入	1 サグラダ・ファミリアの動画や画像を提示し、詳細を説明し、どのように感じたかを問う。 【全体】	○意外とデカいな。 ○外から見ると古そうだけど、中はキレイで真新しい。 ○複雑な構造をしている。	・動画や画像を用いてサグラダ・ファミリアについての説明をすることで、サグラダ・ファミリアについて理解を深めることが出来るようになる。	8
展 開	2 資料を読み、ガウディはどうして後世の人々が後をついてくれると考えることが出来たのか考える。 【個人】【全体】	発問：ガウディはどうして「必ず、後を引き継ぐものたちが現れ、より壮麗に命を吹き込んでくれる」と考えることが出来たのだろうか ○ガウディだけでなく他の人たちの思いもあってようやく完成するから。 ○一緒に働く人の強い思いを感じていた。	・ゆっくりとはっきりとした声で範読する。 ・生徒の反応から必要に応じて、「この壮大な…」といった発問の手掛かりになる本文を提示することで、ガウディの気持ちを読み取ることが出来る。	15
	3 外尾さんが感じる「永遠の命」とはどのようなものだろうか考える。 【個人】【全体】	中心発問：外尾さんの感じる「永遠の命」とはどのようなものだろうか ○人の一生を超えて、永遠に生き続けるもの。 ○自分の仕事が作品として残り、生き続ける。 ○永遠なものなんてあるのだろうか ○一人だけではなく、いろんな人の想いを集め、心で連なるもの。	・サグラダ・ファミリアは無機物であり、生物ではないのにもかかわらず「命」と表現されている外尾さんの意図を教える場を設けることで、「永遠の命」の理解ができるようになる。 ・「今の私たちにでも、先人たちから受け継がれているものはあるか」と問うことで、芸術だけでなく多面的な思考をめぐらすことが出来る。	20
			永遠に続いていくものへの感動や、畏敬の念を深めることが出来たか発言や学習シートの中から評価する。	

終末	4 本時の学習を振り返り、感じたことを発表する 【個人・全体】	○建物だけではなくて、自然や今ある生活も先人たちが受け継いできたものだと思うと大事にしようと思えた。	・本時を振り返って感じたことを記入するように促すことで、永遠に続くものへの感動や畏敬の念を深めること、が出来る。	7
----	------------------------------------	--	--	---

5 板書計画

・平和

・自然環境

○先人たちから私たちに託されているもの

「永遠の命とは？」

⇔

時を超えて繋がる思い

た

- ・「必ず、後を引き継ぐ者たちが現れ、壮麗に命を吹き込んでくれる」なぜ？
- ・一緒に働く人の強い思いを感じてい

「サグラダ・ファミリア
「受け継がれていく想い」

時を超えて繋がる思いを見つめよう

スライド

準備するもの

- ・学習シート 41 枚
- ・フラッシュカード
- 時を超えて繋がる思いを見つめよう
- 永遠の命とは？
- ・スライド
- サグラダ・ファミリア 2026 年完成予定図動画
- サグラダ・ファミリアの細部、内部の写真